



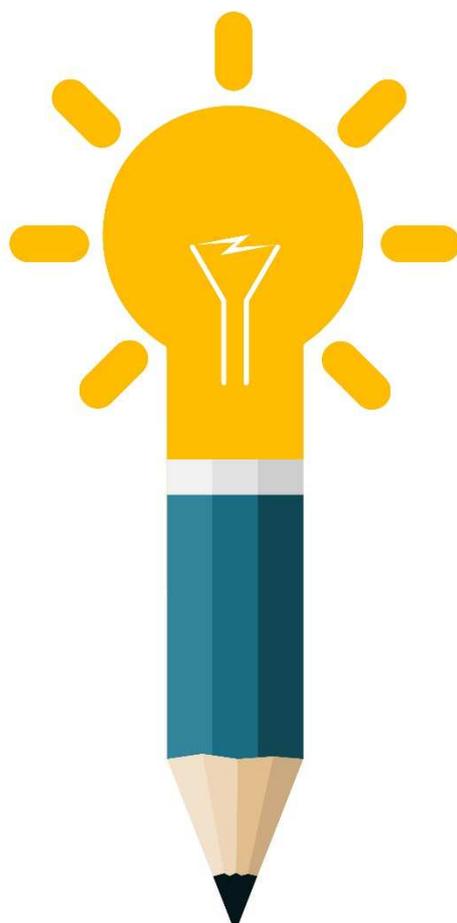
BNY MELLON
INVESTMENT MANAGEMENT

情報提供資料
2021年6月

BNYメロンからのメッセージ

利回りの大切さ

～先行き不透明な今こそ利息収入がモノをいう～



BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第406号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

BNY MELLON INVESTMENT MANAGEMENT JAPAN

BNYメロンからのメッセージ

利回りの大切さ

～先行き不透明な今こそ利息収入がモノをいう～

世界のマーケットは、ワクチン接種の進捗による経済活動正常化の行方をはじめ、引き続き様々な不透明要因が見られる状況となっています。

当資料では、このような先行き不透明感の高い環境下だからこそ、投資対象として魅力度を増す「利回り資産」について、下記の5つの疑問にお答えする形でご紹介させていただきます。



利回り資産に関する疑問

1

利回り資産とは？ ... 2ページ

2

利回りの高い資産は？ ... 3ページ

3

値上がり益と利息収入、強いのはどっち？ ... 4ページ

4

利息収入がもたらす複利効果とは？ ... 5ページ

5

株式と合わせて保有する効果は？ ... 6ページ

1

利回りの大切さ

利回り資産とは？

いつでも安定した利息収入の獲得 が期待できる債券

利回り資産は、主に安定した利息収入を得られる債券などの資産を指します。

価格の変動が大きく、配当が出るか分からない株式に比べて、**相対的に価格変動が小さく、安定した利息収入の獲得が期待できる利回り資産は、今のような先行き不透明な環境で投資妙味が一層増している**と考えられます。

一般的な利回り資産のリターンのイメージ

① 価格変動



価格の変動幅は
株式より小さい傾向ではあるが
相場環境によりまちまち

+

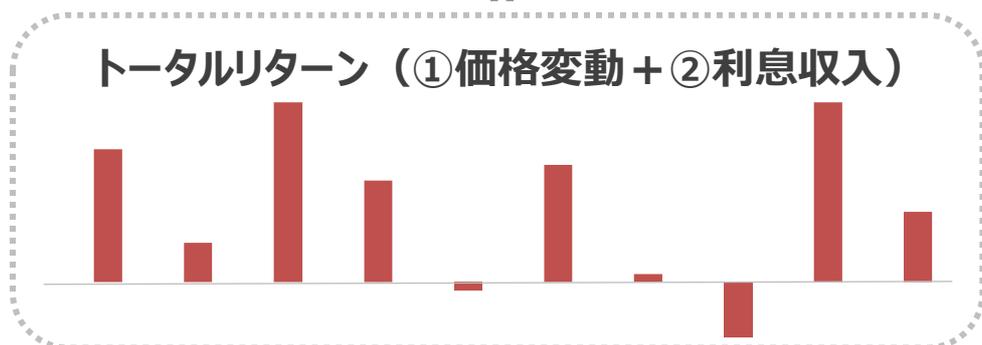
② 利息収入



**安定した利息収入を
継続的に獲得**

||

トータルリターン (① 価格変動 + ② 利息収入)



価格が下落した局面でも
利息収入が
クッションの役割を果たし
全体のリターンを押し上げ

※上記はイメージです。すべての利回り資産について上記のようなリターンが得られるわけではありません。

※上記コメントは作成時点のものであり、今後、予告なしに変更される場合があります。

2

利回りの大切さ

利回りの高い資産は？

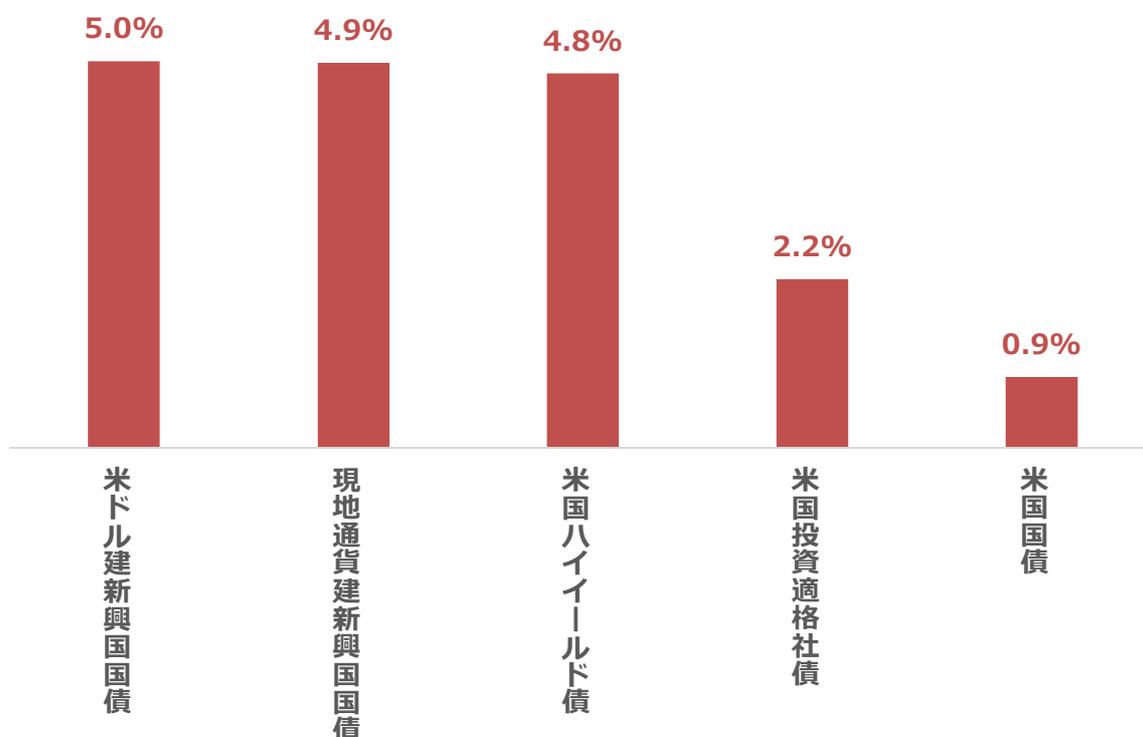
新興国債券やハイイールド債 の利回りが高水準（2021年5月末）

主な利回り資産の現在の利回りは、下記の通りとなっています。

世界的な低金利環境の中でも、**新興国債券やハイイールド債などは、相対的に高い利回りを維持**しています。

主な利回り資産の足下の利回り

(2021年5月末時点)



米ドル建新興国債：JPモルガンEMBIグローバル・ディバシファイド指数、現地通貨建新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバシファイド指数
米国ハイイールド債：ICE BofA USハイイールド・コンストレインド・インデックス、米国投資適格社債：ブルームバーグ・バークレイズ 米国投資適格社債指数
米国公債：ブルームバーグ・バークレイズ 米国公債指数

出所：JPモルガン、ブルームバーグのデータを基にBNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

3

利回りの大切さ

値上がり益と利息収入、強いのはどっち？

過去15年間においては
利息収入が値上がり益を大きく上回る傾向

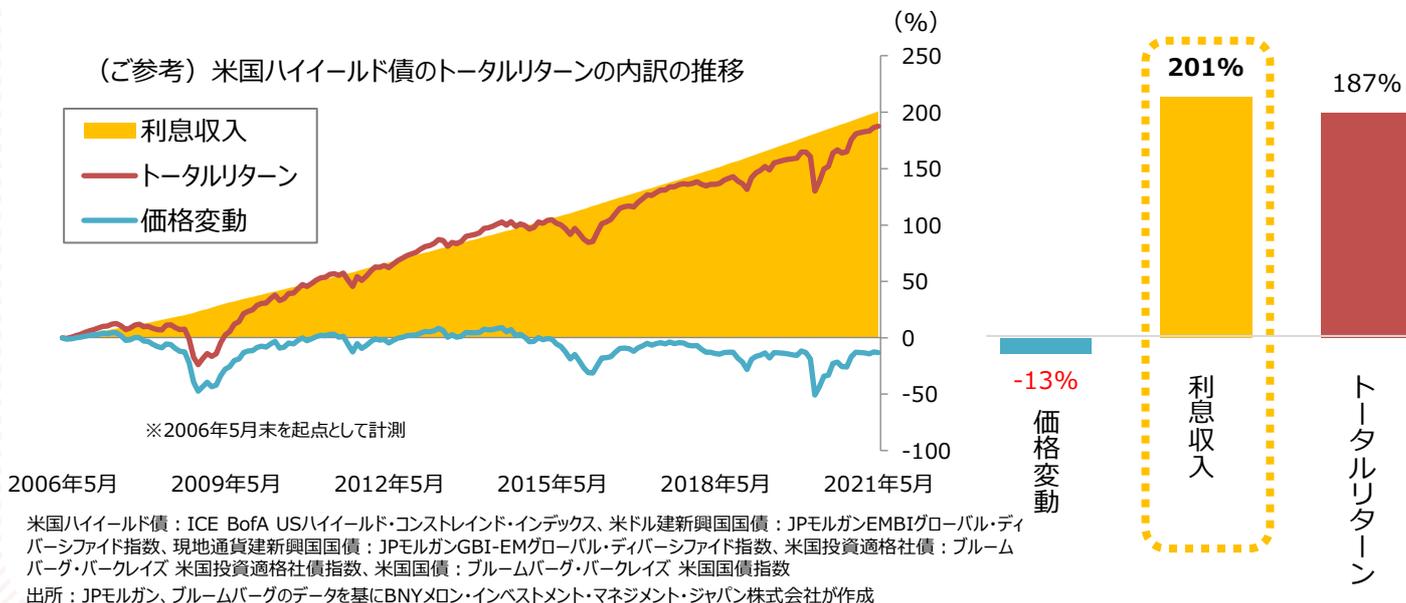
主な利回り資産である5資産について、過去15年のトータルリターンを価格変動と利息収入に分けたところ、**すべての資産で利息収入が値上がり益を大きく上回りました**。利回り資産はリーマンショックなどで一時的に価格が大きく下落する局面もありましたが、**利息収入は安定して積み上げられることで、主要なリターン源泉となっています**。

過去15年間における利回り資産のトータルリターンの内訳（％）

（2006年5月末～2021年5月末、現地通貨ベース）

	価格変動	利息収入	トータルリターン
米国ハイールド債	-13	201	187
米ドル建新興国債	21	149	170
現地通貨建新興国債	59	154	213
米国投資適格社債	29	100	129
米国国債	29	49	78

※価格変動は、上記のトータルリターンから利息収入を差し引いたデータを基に算出。



4

利回りの大切さ

利息収入がもたらす複利効果とは？

利息が利息を生むことで より大きなリターンをもたらすこと

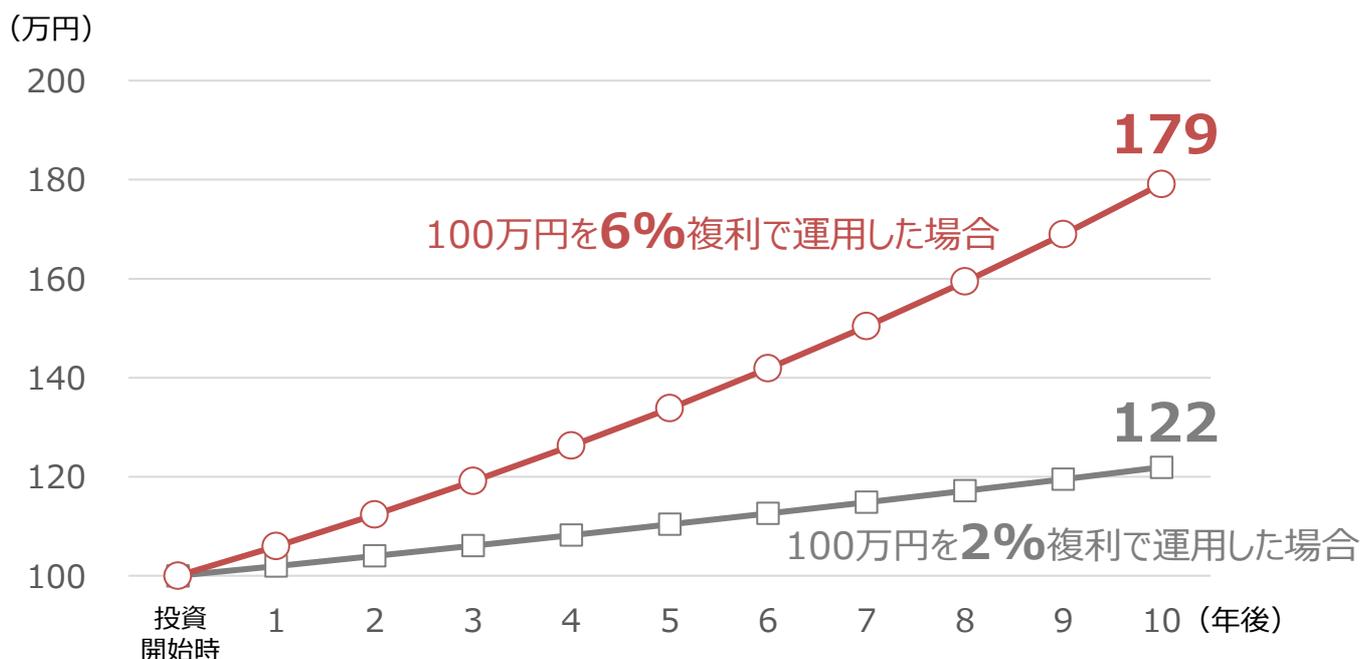
債券投資で得られる利息収入は獲得後、再投資することができます。

利息収入は、このように積み重なっていくことが期待されるため、特に中長期の投資においては、数パーセントの利回りの差が後々大きな投資成果の差となることがあります。

利回りの違いによる10年後の投資成果の違い

100万円を2%複利で運用した場合、10年後に122万円（+22%）になる一方で、6%複利で運用した場合は179万円（+79%）となります。

利回り自体の差は3倍ですが、複利効果によるその投資成果の差は**3.6倍**となりました。



※ 100万円を複利で10年間運用した場合のシミュレーション。

※ 上記では、税金、手数料等を考慮していません。実際の運用とは異なります。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

5

利回りの大切さ

株式と合わせて保有する効果は？

株式と合わせて保有すると
投資効率を向上させることが期待できる

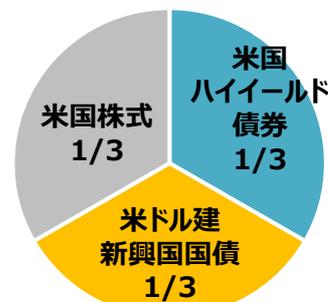
代表的な利回り資産である新興国債券やハイイールド債は相対的に価格変動が小さく、また、株式と値動きの相関が相対的に低い特性を持っています。そのため、こうした利回り資産と株式を合わせて保有することにより、株式のみを保有した場合に比べて、投資効率を向上させることが期待できます。

投資効果

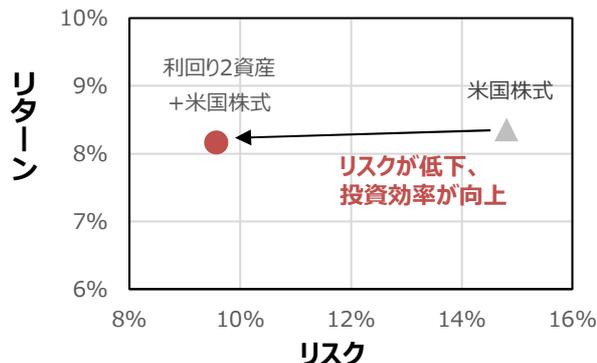
過去20年間のパフォーマンス
(2001年5月末～2021年5月末、米ドルベース)



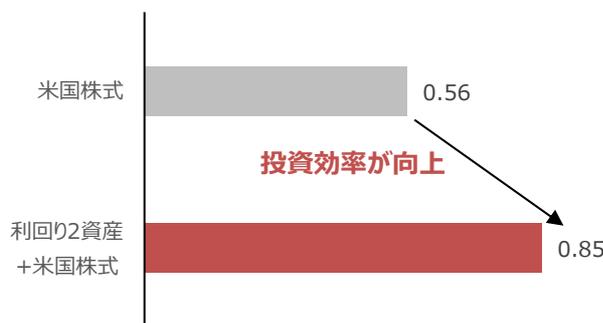
利回り2資産+米国株式
の構成比率



リターン、リスク (年率)
(2001年5月末～2021年5月末、米ドルベース)



投資効率 (リターン/リスク)
(2001年5月末～2021年5月末、米ドルベース)



米国株式：S&P500（配当込み）、米国ハイイールド債券：ICE BofA USハイイールド・コンストレインド・インデックス、
米ドル建新興国債：JPモルガンEMBI グローバル・デリバティブ・ファイアード指数、
利回り2資産+米国株式：米国ハイイールド債券、米ドル建新興国債、米国株式にそれぞれ1/3ずつ投資したものとして上記の指数を合成
出所：ブルームバーグのデータを基にBNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

<投資信託に係るリスクについて>

投資信託は一般的に、株式、債券等様々な有価証券へ投資します。有価証券は市場環境、有価証券の発行会社の業績、金利の変動等により価格が変動するため、投資信託の基準価額も変動し、損失を被ることがあります。また、外貨建の資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。そのため、投資信託は元本が保証されているものではありません。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては各投資信託の投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

<投資信託に係る重要な事項について>

- 投資信託によっては、海外の証券取引所の休業日等に、取得、換金の申し込みの受付を行わない場合があります。
- 投資信託によっては、クローズド期間として、原則として換金が行えない期間が設けられていることや、1回の解約金額に制限が設けられている場合があります。
- 分配金の額は、投資信託の運用状況等により委託会社が決定するものであり、将来分配金の額が減額されることや、分配金が支払われないことがあります。

<投資信託に係る費用について>

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）等をご覧ください。

- 申込時に直接ご負担いただく費用・・・・・・・・・・申込手数料 上限3.85%（税抜3.5%）
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・・・・・・・・信託財産留保額 上限0.70%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限 年率2.035%（税抜1.85%）
- その他費用・・・・・・・・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。

※ 上記費用の総額につきましては、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、BNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

<ご留意事項>

- 当資料は、BNY Mellon・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社が情報提供を目的として作成した資料であり、特定の有価証券の勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。
- 当資料に掲載されている数値、図表等は、特に断りのない限り当資料作成時点のものであり、事前の連絡なしに今後変更されることがあります。
- 当資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
- ファンドに生じた損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。

